

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	日本医歯薬専門学校
設置者名	学校法人 東京滋慶学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医歯薬専門課程	歯科衛生士学科Ⅰ部	夜・通信	2355時間	80×3＝240時間	
	視能訓練士学科Ⅰ部	夜・通信	2190時間	80×3＝240時間	
	歯科衛生士学科Ⅱ部	夜・通信	2145時間	45×3＝135時間	
	視能訓練士学科Ⅱ部	夜・通信	1365時間	80×1＝80時間	
	くすりアドバイザー学科	夜・通信	720時間	80×1＝80時間	
医療事務専門課程	医療事務IT学科	夜・通信	465時間	80×1＝80時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

HPにて授業科目一覧を公開。授業科目一覧の中で、教務の実務経験に関するチェック欄有り。 (掲載： https://www.ishiyaku.ac.jp/publicinformation/disclosure-of-info/curriculum/)

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	日本医歯薬専門学校
設置者名	学校法人 東京滋慶学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

HPにて理事名簿を公開している 掲載： https://www.ishiyaku.ac.jp/publicinformation/disclosure-of-info/
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社 役員	2022.3.31～ 2026.3.30	適切な情報収集
非常勤	株式会社 役員	2022.3.31～ 2026.3.30	財務体制の強化
(備考)			

様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	日本医歯薬専門学校
設置者名	学校法人 東京滋慶学園

○ 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

(歯科衛生士学科Ⅰ部、視能訓練士学科Ⅰ部、歯科衛生士学科Ⅱ部、視能訓練士学科Ⅱ部、くすりアドバイザー学科、医療事務IT学科)

【作成について】

各授業科目については、毎年度、年2回行う教育課程編成委員会の意見を活用し、委員長(教務部長)が改善案を学校長に提出、学校長決済ののち理事会にて決議承認。授業科目の設定・講義内容についての検討・検証に基づき、各授業を担当する教員により作成を行っている。

学内の教員用内規の中で、授業科目名、必要時間数、担当教員名、授業の目標、授業への留意点、授業計画(各回の授業プラン)、成績評価方法、教科書及び教材に関する事項は、全科目共通で記載することが必須となっており、学内統一様式でシラバス作成を行っている。

【時期について】

授業計画は前年度12月～1月に担当教員が作成し、当該年度4月にシラバスをHP上に公開する。

授業計画書の公表方法

掲載:

<https://www.ishiyaku.ac.jp/publicinformation/disclosure-of-info/syllabus/>

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

学則第22条において、成績評価、修了、卒業要件について規定している。

また、学則の細目において評価について規定している。

(参考)

細則第7条 教育課程記載上の科目については、すべて評価を行う。評価は成績表および成績証明書へ記載する。

細則第8条 □各科目について定期試験および臨時試験(論文・レポート・小テストを含む)、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。

2 A、B、C、Dを合格としE、Fを不合格とする。

3 小テストの評価に関しては別に定める。

細則第9条 学外実習は業界評価と学内評価(実習前・後教育)の2要素で評価する。

2□評価記述は「科目評価の基準」を準用する。

3□実習参加の最低条件は以下の項目の全てを満たすとして、教務部長が認めた者とする。

(1) 実習までの履修科目の出席率がすべて良好であること。

(2) 実習に対して十分な目的意識とやる気を有していること。

(3) 身体的・精神的・社会的に実習に耐えうる健康状態であること。

(4) 実習前教育において実習の目的意義を理解し、実習候補者として適性が認められた者。

細則第10条 導入教育・キャリアデザインは、出席率と個人課題評価の2要素で評価する。

2 評価はS（合格）またはU（不合格）にて表記する。
 細則第11条□卒業研究は、出席率と個人課題評価の2要素で評価する。
 2□評価はS（合格）またはU（不合格）にて表記する。
 細則第12条 総合研究Ⅰ・Ⅱは定期試験、Ⅲはグループ課題で評価する。
 2 評価記述は「科目評価の基準」を準用する。
 細則第13条海外研修または国内国際性講座は、出席率と個人課題評価の2要素で評価する。
 2評価はS（合格）またはU（不合格）にて表記する。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

学則の細則において、GPA制度による評価、対象科目を規定している。

（参考）

（GPA制度導入の目的）

GPAは学生の成績を数値化し、客観的に把握するためのものです。学修成績全体の状況を把握し、学生の学習意欲の向上及び適切な修学指導に役立たせると共に、海外への留学や就職等、国際的な評価に対応させることを目的としています。

（GPAの算出方法）□

GPAを算出する計算式は以下のとおりです。（GPAの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入するものとします。）

実点数範囲	100点 ～90点	89点 ～80点	79点 ～70点	69点 ～60点	59点以下	受験資格 喪失
成績評価	A	B	C	D	E	F
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0	0.0

（GPA算出の対象科目）□

基礎分野、専門基礎分野、専門分野のうちの試験等による成績評価を行う授業科目であって、各学科において卒業要件に算入できる授業科目とします。

ただし、次の各号に該当する授業科目については、GPAの計算から除くものとします。

- (1) 入学前に他の専門学校や大学（短期大学含む。）において履修した授業科目、又は海外の職業学校や大学（短期大学含む。）において履修した授業科目（科目履修生として履修した授業科目を含む。）
- (2) 本校在学中に他の専門学校や大学（短期大学含む。）において履修した授業科目、または海外の職業学校や大学（短期大学含む。）において履修した授業科目。□
- (3) 学則の規定による編入学等に伴い、本校の授業を学修したものと同等以上の学力があると認定された授業科目。
- (4) 前各号に掲げるもののほか、各校各学科が別に定める授業科目。（別表）

（GPAの評価対象外科目）

点数評価ではなく、履修の修了また単位認定のみされる科目については、
 評価S（satisfaction）＝合格 評価U（un satisfaction）＝不合格として表記する。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

掲載：
<https://www.ishiyaku.ac.jp/publicinformation/disclosure-of-info/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

日本医歯薬専門学校は、学校教育法に基づき、人々の美と健康を考える視点を大切にし、ホスピタリティを持った医療サービスの担い手として地域医療・保健衛生の向上に貢献する人材を育成することを目的としている。

卒業要件について、学校長は教育課程の定めるところにより、各学年に修了すべき科目について試験を行い、合格者に対して当該科目の修了を認定する。各学科での所定の課程を修了した者には卒業証書を授与する。詳細については細目、ディプロマ・ポリシーに記載している。

当校ではディプロマ・ポリシーを策定し、HPに公表している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

掲載：

<https://www.ishiyaku.ac.jp/publicinformation/disclosure-of-info/>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※ 専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	日本医歯薬専門学校
設置者名	学校法人 東京滋慶学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	毎年7月に最新情報を公開 https://www.ishiyaku.ac.jp/publicinformation/disclosure-of-info/
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	同上
監事による監査報告（書）	同上

2. 教育活動に係る情報

① 学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医歯薬 専門課程	歯科衛生士学科 I 部	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時 数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	2625	1095	300	1230		
			単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時間/ 単位
		単位時間 単位	単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
210 人		226 人	3 人	7 人	40 人	47 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
（概要） 全ての授業において、授業の到達目標、講義内容のまとめとしてコマシラバスを用意している。併せて修得状況

の確認として小テストを毎時間実施している。また、随時担任教員による定期面談をはじめとして、学費担当者、就職支援センターの教職員による相談受付や面談、進路指導、生活指導などを行い、学生に対して積極的な学修を支援している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
63 人 (100%)	1 人 (1.6 %)	62 人 (98.4 %)	0 人 (0.0 %)

（主な就職、業界等）

歯科に関わる医療機関（歯科医院、総合病院、大学病院等）、企業、行政等

（就職指導内容）

専属スタッフ（キャリアコンサルタント）による求人票の見方、履歴書添削、模擬面接、マナー講座、個別面談等

（主な学修成果（資格・検定等））

歯科衛生士（国家試験受験資格）

（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
213 人	4 人	1.9 %

（中途退学の主な理由）

妊娠・出産、経済的理由、病気などの理由による就学継続困難、進路変更等

（中退防止・中退者支援のための取組）

定期的に担任教員と個人面談を行い、修学上の不安事項について相談を受け付けている。内容によっては三者面談を実施。早期対応に取り組んでいる。また、経済的理由で修学が難しくなりそうな場合は専属スタッフが対応し、こちらも同じく三者面談を早期に行うなどして中退防止を図っている。進路変更希望者には面談時に本人の希望について聞き取りを行い、希望する進路に向けての進学先紹介等を行っている。

2. 教育活動に係る情報

① 学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
医療		医歯薬 専門課程	視能訓練士学科 I 部		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時 数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	2625	1125	390	1110		
			単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時間/ 単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
105 人		117 人	3 人	6 人	15 人	21 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）			
（概要） 様式第 2 号の 3 【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 1. を参照			
成績評価の基準・方法			
（概要） 様式第 2 号の 3 【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 3. を参照			
卒業・進級の認定基準			
（概要） 様式第 2 号の 3 【(3) 厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の 4. を参照			
学修支援等			
（概要） 全ての授業において、授業の到達目標、講義内容のまとめとしてコマシラバスを用意している。併せて修得状況の確認として小テストを毎時間実施している。また、随時担任教員による定期面談をはじめとして、学費担当者、就職支援センターの教職員による相談受付や面談、進路指導、生活指導などを行い、学生に対して積極的な学修を支援している。			
卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
25 人 (100%)	0 人 (0.0 %)	24 人 (96.0 %)	1 人 (4.0 %)
（主な就職、業界等） 眼科に関わる医療機関（歯科医院、総合病院、大学病院等）、企業等			
（就職指導内容） 専属スタッフ（キャリアコンサルタント）による求人票の見方、履歴書添削、模擬面接、マナー講座、個別面談等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 視能訓練士（国家試験受験資格）			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
106 人	6 人	5.7 %
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>妊娠・出産、経済的理由、病気などの理由による就学継続困難、進路変更等</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>定期的に担任教員と個人面談を行い、修学上の不安事項について相談を受け付けている。内容によっては三者面談を実施。早期対応に取り組んでいる。また、経済的理由で修学が難しくなりそうな場合は専属スタッフが対応し、こちらも同じく三者面談を早期に行うなどして中退防止を図っている。進路変更希望者には面談時に本人の希望について聞き取りを行い、希望する進路に向けての進学先紹介等を行っている。</p>		

2. 教育活動に係る情報

① 学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
医療		医歯薬 専門課程	歯科衛生士科学科Ⅱ部		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時 数又は総単位数	開設している授業の種類				
	夜		講義	演習	実習	実験	実技
3 年	夜	2490	915	315	1260		
			単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時間/ 単位
		単位時間/ 単位	単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
210 人		218 人	0 人	7 人	28 人	35 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）			
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照			
成績評価の基準・方法			
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照			
卒業・進級の認定基準			
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照			
学修支援等			
（概要） 全ての授業において、授業の到達目標、講義内容のまとめとしてコマシラバスを用意している。併せて修得状況の確認として小テストを毎時間実施している。また、随時担任教員による定期面談をはじめとして、学費担当者、就職支援センターの教職員による相談受付や面談、進路指導、生活指導などを行い、学生に対して積極的な学修を支援している。			
卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
63 人 (100%)	0 人 (0.0%)	58 人 (92.1%)	5 人 (7.9%)
（主な就職、業界等） 歯科に関わる医療機関（歯科医院、総合病院、大学病院等）、企業、行政等			
（就職指導内容） 専属スタッフ（キャリアコンサルタント）による求人票の見方、履歴書添削、模擬面接、マナー講座、個別面談等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 歯科衛生士（国家試験受験資格）			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
218 人	16 人	7.3 %
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>妊娠・出産、経済的理由、病気などの理由による就学継続困難、進路変更等</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>定期的に担任教員と個人面談を行い、修学上の不安事項について相談を受け付けている。内容によっては三者面談を実施。早期対応に取り組んでいる。また、経済的理由で修学が難しくなりそうな場合は専属スタッフが対応し、こちらも同じく三者面談を早期に行うなどして中退防止を図っている。進路変更希望者には面談時に本人の希望について聞き取りを行い、希望する進路に向けての進学先紹介等を行っている。</p>		

2. 教育活動に係る情報

① 学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
医療		医歯薬 専門課程	視能訓練士学科Ⅱ部		—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時 数又は総単位数	開設している授業の種類				
	夜		講義	演習	実習	実験	実技
1 年	夜	1455	735	45	675		
			単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時間/ 単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
35 人		29 人	0 人	3 人	5 人	8 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）			
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照			
成績評価の基準・方法			
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照			
卒業・進級の認定基準			
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照			
学修支援等			
（概要） 全ての授業において、授業の到達目標、講義内容のまとめとしてコマシラバスを用意している。併せて修得状況の確認として小テストを毎時間実施している。また、随時担任教員による定期面談をはじめとして、学費担当者、就職支援センターの教職員による相談受付や面談、進路指導、生活指導などを行い、学生に対して積極的な学修を支援している。			
卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
32 人 (100%)	0 人 (0.0%)	29 人 (90.6%)	3 人 (9.4%)
（主な就職、業界等） 眼科に関わる医療機関（歯科医院、総合病院、大学病院等）、企業等			
（就職指導内容） 専属スタッフ（キャリアコンサルタント）による求人票の見方、履歴書添削、模擬面接、マナー講座、個別面談等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 視能訓練士（国家試験受験資格）			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
35 人	2 人	5.7 %
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>妊娠・出産、経済的理由、病気などの理由による就学継続困難、進路変更等</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>定期的に担任教員と個人面談を行い、修学上の不安事項について相談を受け付けている。内容によっては三者面談を実施。早期対応に取り組んでいる。また、経済的理由で修学が難しくなりそうな場合は専属スタッフが対応し、こちらも同じく三者面談を早期に行うなどして中退防止を図っている。進路変更希望者には面談時に本人の希望について聞き取りを行い、希望する進路に向けての進学先紹介等を行っている。</p>		

2. 教育活動に係る情報

① 学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医歯薬 専門課程	くすりアドバイザー学科	—			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時 数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1 年	夜	810	450	360			
			単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時間/ 単位
		単位時間/単位	単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
35 人		12 人	0 人	1 人	5 人	6 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）			
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照			
成績評価の基準・方法			
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照			
卒業・進級の認定基準			
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照			
学修支援等			
（概要） 全ての授業において、授業の到達目標、講義内容のまとめとしてコマシラバスを用意している。併せて修得状況の確認として小テストを毎時間実施している。また、随時担任教員による定期面談をはじめとして、学費担当者、就職支援センターの教職員による相談受付や面談、進路指導、生活指導などを行い、学生に対して積極的な学修を支援している。			
卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
12 人 (100%)	0 人 (0.0%)	12 人 (100.0%)	0 人 (0.0%)
（主な就職、業界等）			
（就職指導内容） 専属スタッフ（キャリアコンサルタント）による求人票の見方、履歴書添削、模擬面接、マナー講座、個別面談等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 登録販売者			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
16 人	4 人	25.0 %
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>妊娠・出産、経済的理由、病気などの理由による就学継続困難、進路変更等</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>定期的に担任教員と個人面談を行い、修学上の不安事項について相談を受け付けている。内容によっては三者面談を実施。早期対応に取り組んでいる。また、経済的理由で修学が難しくなりそうな場合は専属スタッフが対応し、こちらも同じく三者面談を早期に行うなどして中退防止を図っている。進路変更希望者には面談時に本人の希望について聞き取りを行い、希望する進路に向けての進学先紹介等を行っている。</p>		

2. 教育活動に係る情報

① 学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
商業実務		医歯薬 専門課程	医療事務IT学科		—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時 数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1 年	夜	810	195	615			
			単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時間/ 単位	単位時間/ 単位
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		9 人	0 人	1 人	7 人	8 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）			
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照			
成績評価の基準・方法			
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照			
卒業・進級の認定基準			
（概要） 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照			
学修支援等			
（概要） 全ての授業において、授業の到達目標、講義内容のまとめとしてコマシラバスを用意している。併せて修得状況の確認として小テストを毎時間実施している。また、随時担任教員による定期面談をはじめとして、学費担当者、就職支援センターの教職員による相談受付や面談、進路指導、生活指導などを行い、学生に対して積極的な学修を支援している。			
卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
18 人 (100%)	0 人 (0.0%)	17 人 (94.4%)	1 人 (5.6%)
（主な就職、業界等） 医療事務に関わる病院・診療所、歯科医院、総合病院、薬局、福祉施設等			
（就職指導内容） 専属スタッフ（キャリアコンサルタント）による求人票の見方、履歴書添削、模擬面接、マナー講座、個別面談等			
（主な学修成果（資格・検定等）） 医療秘書技能検定、医事コンピュータ技能検定			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
20 人	2 人	10.0 %
(中途退学の主な理由) 妊娠・出産、経済的理由、病気などの理由による就学継続困難、進路変更等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 定期的に担任教員と個人面談を行い、修学上の不安事項について相談を受け付けている。内容によっては三者面談を実施。早期対応に取り組んでいる。また、経済的理由で修学が難しくなりそうな場合は専属スタッフが対応し、こちらも同じく三者面談を早期に行うなどして中退防止を図っている。進路変更希望者には面談時に本人の希望について聞き取りを行い、希望する進路に向けての進学先紹介等を行っている。		

② 学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料	その他	備考（任意記載事項）
歯科衛生士学科Ⅰ部	50,000円	590,000円	465,000円	
歯科衛生士学科Ⅱ部	50,000円	510,000円	342,000円	
視能訓練士学科Ⅰ部	50,000円	815,000円	561,000円	
視能訓練士学科Ⅱ部	50,000円	715,000円	459,000円	
くすりアドバイザー学科	50,000円	235,000円	102,000円	
医療事務ⅠT学科	50,000円	360,000円	133,500円	
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 （ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） 前年度評価について、学校HP公開している https://www.ishiyaku.ac.jp/publicinformation/disclosure-of-info/		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制） 卒業生、保護者代表、近隣関係者、高校関係者ともに、業界関係者により構成される学校関係者評価委員会を組織し、この委員会が、学校教職員が行った自己点検・自己評価の内容を審議・評価することを通し、学校運営の改善に生かすことを方針とする。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
在校生 保護者	2021年4月1日～2023年3月31日	保護者
高等学校 理事	2021年4月1日～2023年3月31日	高等学校
町会連合会 常任理事	2021年4月1日～2023年3月31日	地域
歯科医院 歯科衛生士	2021年4月1日～2023年3月31日	卒業生
歯科医師会 会長（歯科医師）	2021年4月1日～2023年3月31日	業界
歯科衛生士会 会長（歯科衛生士）	2021年4月1日～2023年3月31日	業界
眼科医院 理事長（医師）	2021年4月1日～2023年3月31日	業界
医療事務研修企業 代表取締役	2021年4月1日～2023年3月31日	業界
薬剤系一般社団法人 職員	2021年4月1日～2023年3月31日	業界
学校関係者評価結果の公表方法 （ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） 前年度評価について、HP公開している https://www.ishiyaku.ac.jp/publicinformation/disclosure-of-info/		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)
<https://www.ishiyaku.ac.jp>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	日本医歯薬専門学校
設置者名	学校法人 東京滋慶学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		34 人	32 人	66 人
内 訳	第Ⅰ区分	21 人	18 人	
	第Ⅱ区分	9 人	10 人	
	第Ⅲ区分	4 人	4 人	
家計急変による支援対象者（年間）				人
合計（年間）				66 人
（備考）				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0	人
----	---	---

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当

したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
	年間		前半期		後半期	
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0	人	0	人	0	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0	人	0	人	0	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0	人	0	人	0	人
「警告」の区分に連続して該当	0	人	0	人	0	人
計	0 人		0 人		0 人	
(備考)						

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0 人	前半期	0 人	後半期	0 人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）

の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0	人
3月以上の停学	0	人
年間計	0	人
(備考)		

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0	人
訓 告	0	人
年間計	0	人
(備考)		

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	0 人	0 人	0 人
G P A等が下位4分の1	0 人	0 人	0 人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0 人	0 人	0 人
計	0 人	0 人	0 人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。